

令和2年5月22日

横浜市長 林 文子様

認定 NPO 法人ホタルのふるさと瀬上沢基金
横浜市港南区港南台 9-30-31
理事長 角田東一

上郷開発舞上線の偏土圧安全性について

東急建設が横浜市と協議中の上郷開発事業計画について、深田・猿田谷戸埋立てによる舞岡上郷線の安全性について陳情します。

陳情項目：

- 1 上郷開発事業舞岡上郷線の地震時偏土圧安全性について、審査を請求する。
- 2 横浜市環境影響評価審査は、事業者提出資料以外は審査しないとしているが、市民等からの指摘により問題が明らか場合は市が事業者資料提出を求め審査する制度の制定を求める。

陳情の趣旨：

- 1 東急建設は舞岡上郷線土手に関わらない資料を提出したため、上郷開発事業の舞岡上郷線偏土圧安全性について、横浜市環境影響評価審査会では正しい偏土圧審査をしていない。資料の図 1 及び図 2 の A 断面 B 断面とも両端が山となっており、舞上線の偏土圧とは無関係となるため審査されなかった。

図 3 の 1985 年ころまでの地形図と比較すると、現在の深田・猿田谷戸開口部は約 20m の土手となっており上部に舞岡上郷線が通っている。東急建設と横浜市が協議中の上郷開発事業の谷戸埋立て量は約 30 万立方メートルで、大地震発生時に舞岡上郷線は大きな偏土圧がかかり滑動崩落の危険がある。

- 2 横浜市の環境影響評価審査は、「事業者から提出された資料を検討するのが責務で、市民から不正資料や問題点を指摘されても検討する制度はない」としている。このため、事業者は問題となりそうな資料は決して出さず、審査会は単なる事業者資料の追認機関になっている。

横浜市は、市民の安全を守る行政を行う姿勢があるなら、問題事項について事業者資料提出を求め審査する制度制定が必要である。

ホタルのふるさと瀬上沢基金は、市民と協力して、
長い間守られてきた瀬上沢緑地を取得・借用・保全を通じて地球環境を守り、
子供や孫たちの世代に豊かな自然を残す為に活動しています。

R2.1.25 現在 会員：173 名 トラスト寄付：15,294 名 1,079 万円

2) 造成計画について

造成計画断面位置図を図 4-1、造成計画断面図及び造成の形状等について図 4-2 に示します。

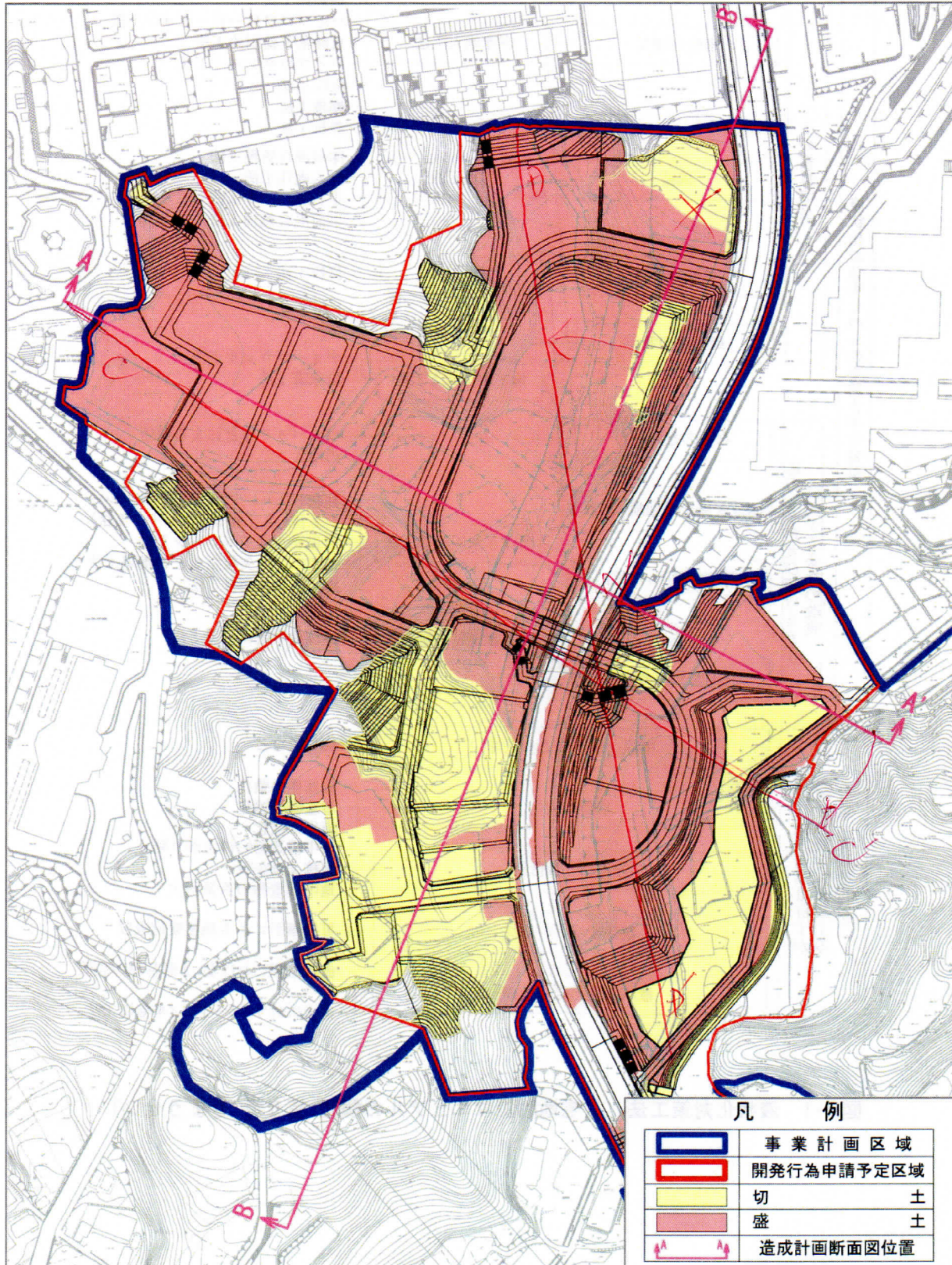
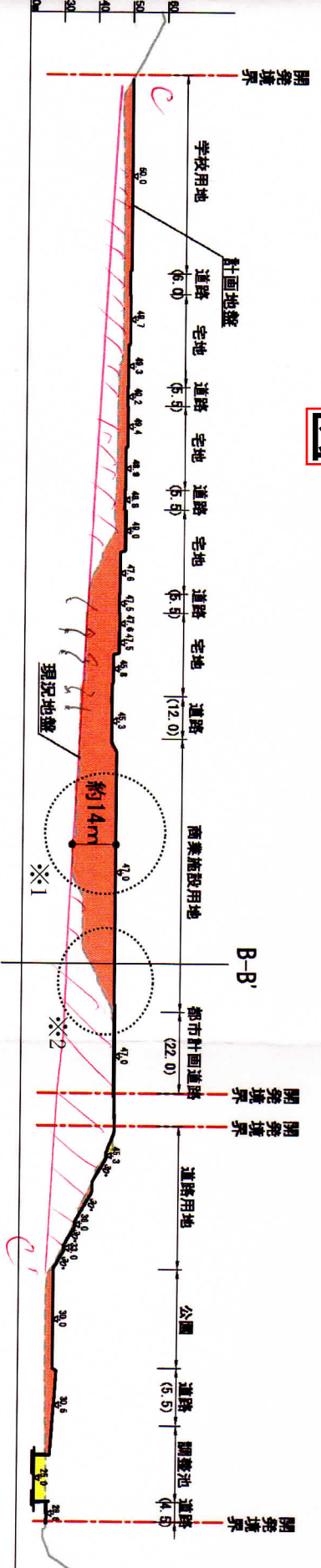


図 4-1 造成計画断面位置図

A-A' 断面 (南北方向)

2

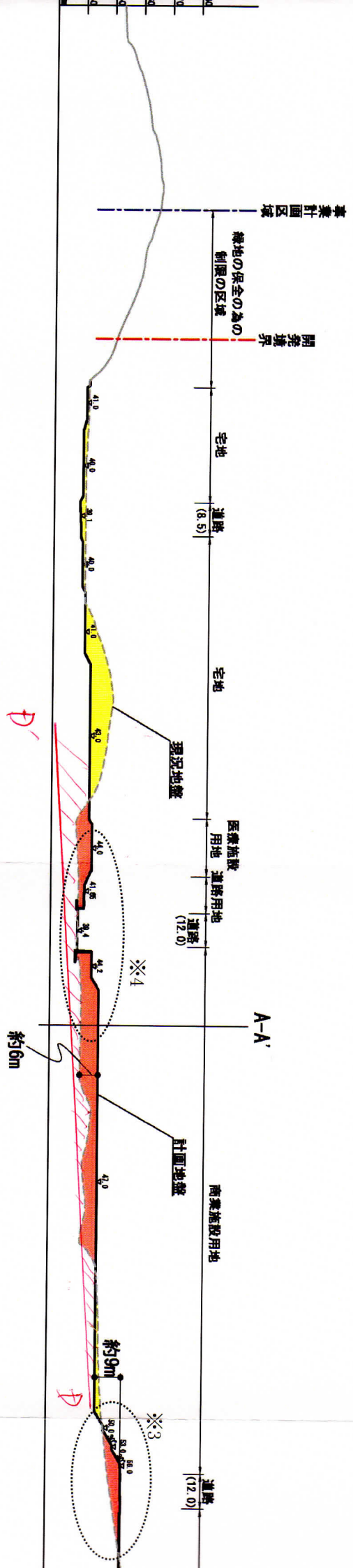


凡 例

	現況地盤
	計画地盤
	事業計画区
	開発境界
	切土
	盛土

図2

B-B' 断面 (東西方向)



地の盛土高さは、最大14m程度です。(※1)。

断面においては、盛土造成面の段差は最大2m程度です。

断面においては、盛土高さは約6m程度です。盛土部は、腹付け盛土(※3)や擁壁を設置(※4)して地盤面を形成します。

地盤上に盛土をする時は、原地盤を段切りし、腹付け盛土施工を行います(※2、※3)。さらに、盛土による法面の高さが9mを超える場合は、円弧すべりに対する安定計算を行い、

图3

山海月

